

クィア移住研究から考える 「LGBTIQ+難民と庇護希望者」

話題提供

工藤 晴子 氏

(神戸大学大学院 国際文化学研究科 准教授)

12月2日(土)

午後1時30分～3時30分

無料

大阪公立大学 文化交流センター 大セミナー室
大阪市北区梅田1丁目2-2-600 大阪駅前第2ビル

「難民」と呼ばれる人々のなかには、非規範的とされるジェンダーやセクシュアリティを背景として移動を経験する人たちがいる。日本でも2023年3月大阪地裁にて、同性愛者の難民の女性が難民申請不認定と退去強制処分取り消しを求める裁判で勝訴した。近年、国際的な人道支援の分野においては、こうした「LGBTIQ+難民」の人々の保護は重要課題として認識されている。本報告ではアメリカ合衆国を事例に、クィア移住研究のアプローチを用いて、人の国際移動、とりわけ強制移動と呼ばれる現象のなかにセクシュアリティの問題がどのように規定されてきたのかを考察する。また、性的マイノリティの人々が難民として移動する経験について、交差性の視点から議論する。

参加をご希望の方は直接会場にお越しください。

お問い合わせはセンターまで <https://www.omu.ac.jp/orp/rchr/contact/>